



第42回全国育樹祭が11月17日から18日にかけて、「育樹から 木のある暮らし つないでく」をテーマに、東京都「海の森公園予定地」及び「武蔵野の森総合スポーツプラザ」を会場に開催されました。



皇太子殿下によるお手入れ



式典に御臨席される皇太子同妃両殿下



緑の少年団活動発表



吉川農林水産大臣による緑（苗木）の贈呈



メインテーマアトラクション（木遣り唄）

## 森林を育て次の世代に引き継ぐ

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹運動のシンボリック行事と、皇族殿下御臨席のもと各種表彰等を行う式典行事のほか、参加者による育樹活動等が行われています。

## 森を育て、木を使うことによる持続可能な暮らしを未来に

東京都で開催されたお手入れ行事及び式典行事には、約5,000人が参加。17日のお手入れ行事では、天皇皇后両陛下が平成8年にお手植えされたイチヨウに皇太子同妃両殿下が枝打ちと施肥のお手入れをされました。18日の式典行事では、皇太子殿下のおことばの後、森林の育成や林業の発展、緑化の推進などに貢献した個人・団体を対象とした方々への表彰や、吉川 貴盛 農林水産大臣から全国の緑の少年団への緑の贈呈、更に緑の少年団の活動発表が行われました。

続いて行われたメインテーマアトラクションでは、「木材利用によって育まれた江戸のまちづくりと文化」、「大都市東京の活動と暮らしを支える森林と木材」、「日本の誇るべき木材利用文化の継承と発信」の3つのフェーズで、木遣り唄や竹製楽器による演奏等が披露され、大会テーマである「育樹から 木のある暮らし つないでく」が具体的なメッセージとして表現されました。最後に、東京都とともに主催者である国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による「大会宣言」等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第43回全国育樹祭は「うけつごう 豊かな緑と みんなの笑顔」を大会テーマに2019年秋に沖縄県で開催される予定です。